

第3学年 音楽科 学習指導案

2005年7月7日(木) 第5限
場所 音楽室

1. 題材 リコーダーに親しもう

- (教材) 「小鳥のために」 作者不詳 (鑑賞教材)
「さん歌」 アルフォンソ10世編さん (鑑賞教材)
「小さな花」 原 由多加 作曲
「にじ色の風船」 里山 萌 作曲
「かりかりわたれ」 わらべ歌
「さよなら」 勝 承夫 作詞・ドイツ民謡・石桁冬樹 編曲

2. 題材の目標

- ・リコーダーの音色に関心を持ち、進んで演奏したり、演奏の仕方を工夫したりしようとしている。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・リコーダーの音色や響きの美しさを感じ取って、音の出し方を工夫している。(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・姿勢や構え方、タンギングや息の使い方に気を付けながらきれいな音で演奏したり、2～3音による簡単なふしをつくったりすることができる。
(表現の技能)
- ・リコーダーの音色の美しさを感じ取りながら聴くことができる。
(鑑賞の能力)

3. 指導にあたって**(1) 題材観**

リコーダーは、マウスピースに息を吹きこむだけで音を出すことができる。しかし、リコーダー本来の美しい音を出すことは簡単なことではない。新しい楽器と出会い、楽器の構え方や息の使い方、運指など、演奏に際して必要となる基本的な奏法を身につけ、よりいっそう音楽の楽しさを感じられるようにしたい。

鑑賞教材「小鳥のために」「さん歌」では、リコーダーのきれいな音色を味わうことができ、しかも、みごとな演奏技巧も楽しむことができる。リコーダーに初めて出会い、その音色や軽やかな音のはこびに、親しみやあこがれを抱くのに適した教材である。

「にじ色の風船」は、シとラの2音だけでできており、リズムも平易なので、児童がリコーダーでさっそく演奏できる「本格的な曲」であると同時に、即興的にふしづくりをして、「つくって表現」することの楽しさを味わうのにも適した教材である。

「小さな花」では、新たにソの運指を加え、曲名を意識することで息の使い方やタンギングを工夫し、リコーダーの音色や響きに心を向けることができると思われる。

「かりかり わたれ」「さよなら」では、さらに、ドとレの運指を加え、パートを選択したり、二重奏や二部合奏を楽しんだりするなど、児童の習熟度に応じた活動ができ、また、音の響き合いの美しさを感じ取ることができる。

(2) 児童観

3年生17名(男子9名、女子8名)は、明るく元気な雰囲気のある学級である。好奇心旺盛で、新しいことや初めてのこととの出会いを楽しんでいる。しかし、苦手なことやうまくいかないことに対しては、とたんに意欲を失ってしまう場面も見受けられる。

前題材「階名になれよう」では、楽譜と音を結びつける活動にあまり関心を持っていない児童がい

たり、鍵盤ハーモニカの演奏においても運指の仕方などに技能の差が見られたりした。本題材のリコーダー奏では、やはり技能にかかわる面のウエイトが大きくなり、児童の意欲を左右することが予想される。子どもたちの小さな進歩を大切にしながら、次の意欲につながるような支援を心がけたい。

(3) 指導観

リコーダーという新しい楽器と出会い、演奏に際して必要となる最も基本的な奏法を身につけていくための学習である。まず、鑑賞の活動を通し、美しい音色に耳を傾け、その音色を味わうことから始めたい。そして、リコーダーの美しい音色にあこがれる気持ちを動機づけにして、左手の運指だけでできるソ〜レの5音を段階的に学習していく。演奏できる曲を増やしたり、簡単なふしづくりを試みたりするなど、表現できる音が増えていく過程が児童にとって楽しいものとなるように配慮したい。また、教材としてとりあげる曲は、リズムが易しく、使われている音も2〜5音と限られているので、前題材で扱った階名視唱や視奏に無理なく慣れるのにも適している。「つくって表現」することにおいても、前題材での鍵盤ハーモニカによるふしづくりの経験をもとに、リコーダーによる即興的な表現の楽しみや、「自分だけの音楽」をつくることの喜びをより広げていくことができるだろう。

4. 指導計画と評価規準

次	小単元	ねらい	おもな学習活動	評価規準 (◎) と評価方法 ()
4	リコーダーと出会う	リコーダーに関心を持ち、美しい音色を味わって聴いたり、基本的な奏法やシ、ラの運指に慣れたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞用 CD「小鳥のために」を聴き、リコーダーの音色を味わう。 リコーダーの構え方や音の出し方を知る。 	◎<鑑>リコーダーの美しい音色を味わいながら聴いている。(鑑賞中の表情や鑑賞後の感想発表の内容)
			<ul style="list-style-type: none"> シの指づかいを知る。 シの音で吹く。 シの音で、指導者の演奏を模倣する。 	◎<関>リコーダーの音色に関心を持ち、範奏を進んで聴いて、演奏の仕方を工夫しようとしている。(活動の様子の観察)
			<ul style="list-style-type: none"> 指づかい図を利用して、ラの指づかいを知る。 シとラの2音で指導者の範奏を模奏する。 2音からなる簡単な旋律からできている曲を演奏する。 	◎<関>リコーダーの音色に関心を持ち、進んで聴いたり演奏したりしている。(活動の様子の観察) ◎<表>2音の運指がスムーズにでき、正しい構え方や音の出し方、タンギングをしている。(活動の様子の観察や演奏の聴取)
			<ul style="list-style-type: none"> 「にじ色の風船」を演奏する。 最後の2小節のふしを即興的につくって演奏する。(本時) 	◎<表>シとラの2音を使って、ふしづくりをしている。(活動の様子の観察や演奏の聴取)
3	きれいな音でふこう(タンギング)	シ、ラ、ソの運指に慣れ、タンギングの仕方を工夫しながら演奏することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ソの運指を覚え、短い旋律を演奏する。 ソからシの跳躍する運指に慣れる。 	◎<表>運指とタンギングのタイミングを合わせて演奏している。(活動の様子の観察や演奏の聴取)
			<ul style="list-style-type: none"> CDで「小さな花」を聴き、曲のイメージをつかむ。 フレーズごとに階名や「トゥ」で歌い、リコーダーで演奏する。 	◎<感>曲名を意識しながら、曲のイメージを感じ取っている。(活動の様子の観察、表情、発言)

			<ul style="list-style-type: none"> ・「小さな花」を通して演奏する。 ・やさしくかわいらしい曲想を感じながら、タンギングの仕方を工夫する。 	◎<表>シ、ラ、ソの運指に慣れ、タンギングや息の使い方に気を付けて演奏している。(活動の様子の観察や演奏の聴取)
5	楽しみを広げよう	ソ、ラ、シ、ド、レの5音の運指に慣れて、旋律の演奏に親しみ、即興的なふしづくりや、二重奏、二部合奏を楽しむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞用CD「さん歌」を聴き、リコーダーの音色を味わったり、演奏技巧を楽しんだりする。 ・ド、レの運指を覚える。 ・ラ、ド、レの3音で「かりかりわたれ」を演奏する。 	◎<鑑>リコーダーの音色や演奏の仕方に気を付けて聴いている。(鑑賞中の表情や鑑賞後の感想発表の内容)
			<ul style="list-style-type: none"> ・ラ、ド、レの3音でのふしづくりをする。 ・拍の流れにのってリレー奏をする。 ・リズム伴奏を加え、リレー奏を楽しむ。 	◎<表>ラ、ド、レの3音を使って、ふしづくりをしている。(活動の様子の観察や、演奏の聴取)
			<ul style="list-style-type: none"> ・CD「さよなら」を聴き、曲想をつかむ。 ・①パートの歌詞唱や階名唱をして、旋律の流れやリズムを感じ取る。 ・①のパートをフレーズごとに練習する。 ・①のパートを通して練習する。 	◎<感>曲のイメージや、演奏の仕方の工夫、音の響き合いの美しさなどを感じ取っている。(活動の様子の観察、表情、発言)
			<ul style="list-style-type: none"> ・②のパートの歌詞唱や階名唱をして、旋律の流れやリズムを感じ取る。 ・②のパートをフレーズごとに練習する。 ・②のパートを通して練習する。 	◎<表>ソラシドレの運指に慣れ、旋律を演奏している。(演奏の聴取)
			<ul style="list-style-type: none"> ・①のパートを演奏する。 ・②のパートを演奏する。 ・①②のパートに分かれて、二部合奏する。 ・少人数のグループに分かれて二部合奏したり、2人1組で二重奏をしたりする。 	◎<感>互いのリコーダーの音色や響き合いに気を付け、二部合奏の仕方を工夫している。(活動の様子観察、発言の内容)

5. 本時の学習 (第一次の第4時)

(1) ねらい

シとラの2音でできた旋律を演奏し、その最終部分で、即興的にふしづくりをすることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・シとラの2音を使ってふしづくりをしている。 <表現の技能>

■ Aと判断するキーワード

シとラを並びかえることで、違った感じのふしになることに気づき、いろいろ試している。

<表現の技能>

■ Cと判断される児童への支援

簡単な例を示し、まねをして演奏することで自信を持たせ、ふしづくりへの抵抗を取り除く。

<表現の技能>

(3) 準備

指づかい図、最終部分の旋律を書き出した紙、譜面台、ワークシート、風船のペープサート

(4) 展開

	時 間	児童の活動と意識の流れ	支援 (☆) と評価 (◎)、留意点 (□)
--	--------	-------------	------------------------

ふりかえる	3	1. 体を動かしたり、既習曲を歌ったりする。 ・体を動かして 「茶つみ」 2. シとラの音を吹く。 ・いろいろなリズムで ・まねして吹いてみよう	□授業の後半のグループ活動を考え、友達とのいい雰囲気づくりができるように配慮する。 □構え方や姿勢、タンギングなど、基本的なことからを想起できるような声かけをする。 ☆「にじ色の風船」に結びつくようなふしをとりあげ、練習の際の負担を軽くする。
つかむ・練習する	6 8 15	3. シとラの2音でできた曲と出会い、練習する。 「にじ色の風船」を演奏しよう。 ・2つの音だけでできている。 ・トウで歌ってみよう。 ・2小節ずつ練習してみよう。 ・通してやってみよう。 4. 最後の2小節のふしを即興的につくってみる。 <div data-bbox="331 842 778 927" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 終わりの2小節のふしづくりをしよう。 </div> ・風船はどんな動きをしているのにしようかな。 ・どんなふしになるだろう。 ・元の曲とちょっとちがうぞ。	☆児童が読み取る階名を、順に黒板の五線に書き入れ、黒板の楽譜を完成させることで、より楽譜に親しむことができるようにする。 ☆ペープサートの風船を揺らし、その動きを旋律に結びつけばよいことを知らせ、意欲を持たせる。 ◎＜表＞シとラの2音を使ってふしづくりをしている。(活動の様子の観察、ワークシート) ☆簡単な例を示し、まねをして演奏することで自信を持たせ、ふしづくりへの抵抗を取り除く。
深める	10 3	<div data-bbox="331 1189 778 1274" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 風船の動きを考えて、ふしづくりができたよ。 </div> 5. グループ内で発表する。 ・ソロをやっているみたいで緊張するな。 6. ふりかえりを書く。	☆各グループを回り、うまくいかないグループには発表が楽しく進められるように、声をかける。 ・次は～さんがソロだね。 ・途中まで一緒にふこう。